

なんにもない

京北黒田の

忙しい毎日。





地元の方々は、都会からの移住についてどう思っていますか？

— 移住の際に気になることとして、地元の人が快く受け入れてくれるのか、という問題があります。そこで、地元で生まれ育った3名と最近移住してきた3名に集まってもらい、皆さんの本音を聞いていきたいと思います。

どんな人でも大歓迎っっちゃうわけには、やっぱりいかんけどね。

川口 私自身は地元の皆さんにすごく良くしてもらって感謝しているけれど、そのために努力はしてきたつもりです。地域の活動に参加したり、行事の手伝いをしたり。田舎でのんびり過ごしたいという、別荘みたいな感覚での移住はなかなか難しいですね。

新井 僕も、簡単には認めてもらえないだろうとかなり身構えて黒田に来たので、「来てくれてありがとう」と言ってもらって驚きました。田舎の間関係ってもっと厳しいと思っていたので。

由里 人数が増えてにぎやかになるのは、もちろん歓迎ですわ。ただ、人口が少ないわりに地域

の仕事が多いから、日役や除雪当番、消防団、町内会と、色んな役目が回ってくる。そんなんに全く参加せえへんというのはちょっと困るわなあ。誰かがやらんと、皆が生活できひんからね。

新井 確かに、街中にいた時より忙しくなりましたね。でも、消防団は思っていたほど負担でもないし、年齢の近い知り合いが一気に増えたので、僕は入ってよかったと思いました。

吉田 私は逆に、何のイメージも持たずに来たのがよかったのかも……湿度と日当たりの悪さに慣れるまで少し時間がかかったけど、あまり生活に不便も感じていません。ただ、男の人は色々と寄り合いがあるのに、女性は集まる機会が少ないですね。最初はそれがちょっと寂しかったです。何かしたいけど、どこに行ったらいいかわからなくて。

江後 女の人は外からお嫁に来た人が多いし、移住してきたからって遠慮することないのよ。街中や京北の他の地域から嫁いできた人もいるし、私みたいにずっと黒田にいる方が珍しいからね。

大和田 婦人会はなくなってしまったけど、新たに会を作って興味ある人が集まったらええんちゃうか。

なんにもないけど、欲しいものは自分たちで作ってあげばいい。

川口 市街地まで車で1時間で出られるから、意外と不便はないんですね。太秦や岩倉の図書館にもよく行きますし、本は周山の図書室で市立図書館の蔵書検索をして取り寄せもできます。街中での映画や買い物も楽しいんですけど、黒田に帰ってくると生き返るといふか……思いきり息を吸える感じがします。

吉田 そうですよね。ないものはたくさんあるけど、本当に欲しいものは自分たちで作ってあげばいいのかなって思ってます。建物は空いているから、みんなの本を集めて、勉強したりゆっくり読書したりできる場所を作りたいなあとか。

大和田 昔から住んでいる人の中には、どうでもええやん、しゃあないやん、と諦めている人もおるねん。色んな考えの人がいる。けど、わしらは黒田しか知らんさかいに、考え方を変えていかんと。若い人たちが黒田を引っ張っていつてくれるようにしていかなと。



江後 私らはもう農業だけで生活していくのは無理やと思ってたけど、新井さんや吉田さんが農業でがんばってくれて、うまいと思ったらいいなあと思っています。こないだのお宮さん(神社)の掃除の日役みたいに、みんなで用事しながら喋れる機会がもっとあるといいわね。

地域を良くしたいという、今までにない気持ちが生まれた。

川口 街中では感じなかった挑戦する気持ちとかやりがい、黒田の生活にはありますね。黒田に来て皆さんとお話する中で、若い世代を増やさないといずれ生活が立ちいかなくなって、ここに住み続けられなくなるという危機感を持ちました。私が来てからの数年の間にも存続できなくなった行事があって、子どもたちも寂しがっています。なんとかして、今あるものを続けていきたい。



由里 縁があって来てもらったからには、皆の頑張りが花咲くように地域としても考えていかなあかんと思う。これからは我々に代わって、あんたたちにものごとを進めてもらわんならんのやからね。京北の中でも、黒田は地域が活発やと言われるんや。皆がまとまって祭りなんかをやってるからやろうね。

新井 ふれあいまつりや桜まつりに参加して、黒田の人たちが地域に誇りを持っていることをすごく感じました。今まで僕は、自分が住んでいる場所に特に愛着がなかったんです。でもここに来て、問題は山積みやけど、自分たちが良くしていかなあかんという責任感が生まれてきました。そういう場所で人生を過ごせるのは素敵なことだと思います。

大和田 最後に言うのとくけど、なんか困ったことがあったらもっとわしらに聞け。ちょっとあれ貸してくれへんかとか、なんでもな。遠慮せんと言ったらええぞ。

— 2時間にわたる座談会、お疲れ様でした!書ききれなかったお話はWebサイトで公開予定です。

1

ムカデやカメムシ と共に暮らす

着替えた服の袖からムカデが出てきた。洗濯物にカメムシがついている。山を歩けばヒルに襲われる。家の裏に蜂の巣がある。そんなことは日常茶飯事です。鹿やイノシシが出るのも当たり前。何度も驚かされているうちに、だんだん対策を考えるのが楽しくなってきました!



2

習いごとは送迎必須

子どもの教育や進学には悩みもあります。小中学校は少人数で手厚い指導が受けられ、運動もしっかりさせてもらえますが、友だちの家や習いごとは距離が離れていて車で送迎が必要です。外遊びの環境は最高ですが、危険な場所もあるので大人の見守りは欠かせません。



3

「日役」 という名のボランティア活動

全家庭に参加を呼びかけて、水路の掃除や道の補修、草刈りなどを行う、田舎によくある制度です。行政サービスの届かない田舎では、自分たちが動かないと生活が成り立ちません。その日どうしても都合がつかないときは、必ず断りを入れます。田舎暮らしはとても忙しいです!



4

皆うわさ話 が大好き

ある人に話したことが2、3日のうちには地域中に広まっていた、なんてことが田舎ではしばしば起こります。とにかく情報伝達が早い。その過程で話がふくらんでいくこともあるので、要注意です。でもそれは心配や親切の表れで、悪気はないんです。



黒田の暮らしは 楽じゃない。

都会の暮らしにはない、田舎独特の
不便さや面倒臭さ。

負担を感じる人もいれば、
逆に楽しんでる人もいます。
あなたはどう感じますか?

5

冬の光熱費が高すぎ!

家賃は圧倒的に安いです。実は都会より高いものも多いです。プロパンガスやトイレの浄化槽は都市ガスや下水道の料金より高いですし、ガソリン代や冬の灯油代、薪代もかさみます。輸送コストがかかる分、日用品も街中より高く感じます。



6

どこにいても車でばれる

どこへ出かけるにも車が必要。家に車が停まっていると、居留守は使えないし、車種やナンバーで誰の車かわかるので、どこへ行っても見られている感覚があります。最初は戸惑うかもしれませんが、いざという時にお互い助け合えることができるのは、日頃から見守り合う関係があるからこそなのです。



7

地域の役職 が毎年回ってくる

人口の少ない黒田では、自治会や町内会、消防団や防災組織など、多くの人が地域の役職を掛け持ちしています。いずれ移住者にも役職が回ってきて、お祭りや行事の運営に携わることに。毎年、何かしらの役が回ってくると思っておいてよいでしょう。



8

雪かき がたいへん!

雪の多い年には70cm以上積もることもあり、玄関から道路までの道を確保するにも一苦労。国道以外の細い道は、当番制で除雪車を走らせません。危険な雪道の運転も慣れるしかありません。台風や大雨による停電や道路の通行止めなど、災害とは年中隣り合わせです。



Q. 黒田の生活、正直どうですか？

失ったもの編



失ったものもあるけど、
得たものの方が大きかった。

夜道の散歩ができないのは残念だけど……

夕飯の後にのんびり散歩するのが好きなんです。でも、ここは街灯がないし、クマやイノシシも怖いので諦めました。街中まで気軽に出かけられるので、田舎の中では恵まれた環境です。(新井遼)

晴れの日が少ない!洗濯物が乾きません。

山に囲まれている黒田は、京北の中でも空が狭く、日が当たる時間が限られます。しかもスカッと晴れる日は珍しい。こればかりは慣れるしかありません。最近では、晴れただけで気持ちがウキウキするようになりました。(新井愛)

カフェやショッピング、外食、映画など

同世代の友だちと会う機会が減り、すっかりおしゃれにも疎くなりました。代わりに美しい風景を毎日眺められるので、満足です。(複数)



人口が減る中で、暮らしを継続できるのか…

今、地域の中心となって自治会や行事を盛り上げてくれているメンバーは、高齢の方がほとんど。黒田では70歳でも若手と呼ばれます。5年後、10年後には、移住してきた私たちの世代がその役目を担わなければいけません。知識やスキルをちゃんと受け継いでいけるのかという不安もありますが、黒田のすばらしい行事や景観を守っていきたいと思います。

農業をする人が減り、代々受け継いできた大切な農地を守る意識が薄れていくことも心配です。自然環境を守るためにも、自分たちがしっかり引き継いでいきたいです。(新井遼)



悩み編



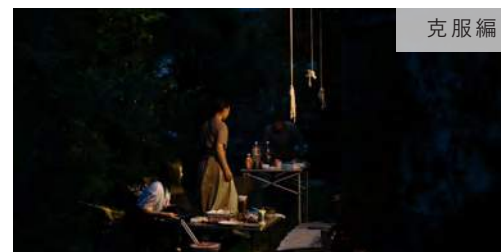
人口が減り、地域の存続に
危機感がある。

高校進学タイミングで決断を迫られる。

京北唯一の北桑田高校まで、バスを乗り継いで1時間。都市部の高校への進学で、京北を離れる家庭もあります。高校進学が、田舎暮らしを続ける上での分岐点になるように思います。(川口)

Q. 黒田暮らしを楽しむコツは？

克服編



不便さも大変さも、
楽しみながら乗り越えられる。

一度好きになると、いいところが見えてくる。

最初はないものねだりで隣の地域が羨ましくなったりもしたけれど、だんだん黒田のいいところが見えてきました。うちの方が川が近くて気持ちいいな、とか。布団を思いっきり干せる。庭で大声で歌える。小さなことの積み重ねが満足感につながって、今は毎日が最高です。(吉田)

引越した家に、前の住人の家財道具が……。



ありがたく使わせてもらいつつ、山積みの不用品は見ないふり。新旧入り混じった空間を楽しみます。(新井愛)

やりたいことがあふれてくる。

黒田を終の住処に決めたことで、移住者を増やしたいという思いが自然に湧いてきました。目標が定まったので、イベント企画やお年寄りの居場所作りなど、アイデアがあふれてきます。(川口)

心豊かになる。

田舎住まいができる人たちは、心が豊かだと思いません。自身で暮らしを楽しむことができるので。都会で



働くうちに心身が疲弊してしまい、黒田にUターンして田舎暮らしの豊かさを改めて感じました。(岩浅)

停電も、キャンプだと思って楽しめばいい。

強風による倒木で停電が1週間続いたのですが、ガスと水は使えたので、キャンプだと思って過ごしました。地域の方々は心構えができていいのか、いつもと変わらない様子で生活しているように感じました。(吉田)

得たもの編



朝起きて、外に出た瞬間の
景色が素晴らしい。

自然に囲まれて過ごすことが何よりの幸せ。

夏には川で魚釣り、冬にはかまくらを作り、大人も子ども以上にはしゃいでいます。鳥や虫の鳴き声をききながら澄んだ空気をたっぷり吸い込むと、最高に気持ちがいいです。(川口・吉田)

アクセス

車

京都駅 から 約 75 分

国道 162 号・国道 477 号経由

バス

JR・市営地下鉄「京都」駅

↓  西日本 JR バス 高雄・京北線 1 時間 24 分

「周山」乗り換え

↓  京北ふるさとバス 山国・黒田線 26 分

「黒田（宮）」下車



お問い合わせ

黒田自治会

京都市右京区京北宮町宮野 80-1

TEL 075-856-0001

おーらい黒田屋

京都市右京区京北宮町宮野 93-2

TEL 075-856-0968 (10:00~16:00)

<http://ohraikurodaya.sakura.ne.jp/>

空
き
家
情
報
発
信
中



発行 黒田自治会

企画 西 新治

発行日 2020 年 3 月

協力

移住者：新井 遼・愛 / 岩浅 翔・彩 / 川口 紗英子 / 野中 航平 / 松本 宇生 / 森田 元樹 / 吉田学志・まり
地元の人：江後 保子（主婦）/ 大和田 信也（おーらい黒田屋・空き家活用部長）/ 由里 保（黒田自治会長）

京都市北部山間かがやき隊（地域おこし協力隊）：
小林 悠歩 / 常盤 成紀

京都市移住相談支援員：三谷 博文

私たちと一緒に
5 年後・10 年後の黒田を
担ってくれる仲間を待っています！

